

680  
.K2



慶長  
以來  
新刀辨疑

七



新刀辨ニフハナ卷之七

附錄上

山城國住人涯忠大和方提伴吉信大和方大沼子以集の妻女中の  
吉行とい別人輩べしえ縁以の縁居うて上も是

即ち老を働かぬ時位に老をくしぬい青信を考へて云ふ。寛  
 永の治工と云ふより老能くそ老の戦をくしぬを足す。

煙土賣第六犯の土屋、作小龍龍土市とあり、細い土造りの家  
敷よりくみ草や木竹、

日向國福系伊豆と銘す尾張の伊豆とち金道あり又二丁目  
ありやけの伊豆ありと云作あり

山城國守軍度十六丁の番を切板目の紙貼みよと云

後任を承けたるの原侯と號す地狭あつと云ふ。あ  
 ず後集の裡なるもの二代目以来と稱ふ。



國道

平家源氏を奉る國道は縁國やわが吉田の縁原より志師もほ  
せしやとあるあり

國光

山城國光を奉る小西師兵の縁原より志師もほ  
せしやとあるあり

金道

伊勢守を奉る金道の代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

金道

右の代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

金道

六代目今時の金道雷原の小刀多し日本源氏金道と切てせし  
やとあるあり

金道

京都の住人伊勢守を奉る金道の代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

正俊

戦中ちの四代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

義道

相模守を奉る義道の代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

吉道

東丹波守吉道の四代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

吉道

東丹波守の五代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

吉道

系丹波守の六代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

國光

大坂守河内守武蔵守國光の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

吉道

大坂丹波守の七代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

吉道

大坂守の八代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

廣高

大坂大坂守の九代目此作父の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり

廣重

大坂大坂守の子孫を奉る廣重の縁の如し志師もほ  
せしやとあるあり



宗次

、後所大抵人但る常安人と雖も、此作地決細ううみて弱く此  
紙より果し、いふ事あり、あらず

光雄

振則方極地味を良光雄と云ふ、新宗子う作やお目し、龍あや記  
あし、いふ事あり

貞弘

是州僅藤原と弘地味理藤原と云ふ、のれく、いふ事あり

國治

尾陽佐本國治地味理く龍あや記し、續久ハ國と云ふ事あり、但る  
仍て、いふ事あり、いふ事あり

忠廣

遠江吉野國佐藤系忠廣ハ遠江の佐藤あや記し、龍あや記人の如き  
いふ事あり、いふ事あり

包國

和おと振の包國佐藤系忠廣ハ遠江の佐藤あや記し、龍あや記人の如き  
或南紀系國と云ふ事あり、いふ事あり

兼舎

甲州の佐藤系兼舎天正此の龍治うし、龍中心と云ふ事あり、龍の流と云  
いふ事あり

安利

武州佐安利ハ大和守安定と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

義助

於江戸系助ハ南東漢造と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

宗重

常陸守宗重ハ後之二代目と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

弘包

行徳の二代目弘包市、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

松齊

小笠原松齊ハ別人あり、戸川と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

國正

一書ハ、但る國正弘包市、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

後ハ山城守國正ハ改二日目と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

村國正ハ下板市、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり

是一

一書ハ、但る國正弘包市、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり、龍と云ふ事あり  
いふ事あり、いふ事あり







兼辰

源州上右大臣兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

壽命

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

信吉

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

長治

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

助宗

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

國包

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

安倫

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

兼之

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

長道

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

國義

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

義正

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

國虎

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

貞則

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

貞平

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

貞資

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也

康氏

源氏兼辰は源氏より黒く小丸又少く方縁の作也



勝國

カ州院君元勝國初代ハ而集あ出する當時七代連勝す之程、如く上よりいあらん

兼若

カ州院君元兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

高平

カ州院君高平兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

國清

カ州院君國清兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

康經

カ州院君康經兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

重高

カ州院君重高兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

國次

カ州院君國次兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

宗道

カ州院君宗道兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

信仍

カ州院君信仍兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

忠國

カ州院君忠國兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

兼先

カ州院君兼先兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

氏繁

カ州院君氏繁兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

秋弘

カ州院君秋弘兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

秋盈

カ州院君秋盈兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

重貞

カ州院君重貞兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん

祐定

カ州院君祐定兼代有享保の事、如く院院細くして是程、如く上よりいあらん



祐宣

書對光

書

祐安

弘吉

一五

正成



海内書秘室ハとの源流よりて源ハ多と号すト云々又藤ハ多毒次  
 ヲ印テあるの作有ヒ海内書表次ニ載シテ此等何由多とい印ハ其  
 チハ劇尉徳宣或ハ二代目上野右孫三代大和左孫四代武進五代  
 源ノ述六代保々ノ氣持立ハ表光ト改明ホあ中ノ後工上ヨリヤ  
 倭前國古江住人マツケル所の源流表次ト稱ス表光ヲツクヤ  
 倭前國長江住人ノ所の源流表流ト云表光ヲツクヤ  
 倭前國山田下住人正吉弘吉百人ハ倭前傳云ハありバツケ  
 播磨の氏重傳を頼ム  
 倭前國山田住人吉守隆政新居の令不似て源ハハ物ユク切  
 トモ也在者ノ所ト稱ス播磨良家ヲツク人トアリ  
 東冬門之尉正義ハ正兼如傳即チる者ナリ又ハ正兼正次正盛之  
 代アリ一カキ出者西次ハ似テリア之路同人ナリ亦ハ詳ナラズ  
 倭前福山住水田國重ハ倭中ヨリ来リ一ヤキ出年倭中ニテ源ハ  
 ナリ異アリバ其源アリケルヤ也

盛行

輝廣

廣隆

慶華

方清

蒙次

中國

康光

倭國屋道任五河係筆の慶長此の御治より細路多し上り也  
 中外其御係力何係書同様に同位の仕事  
 安藝國人犯候者也而集不備なり中傳申し形已小なりたり持廣也  
 の家の御や或る人の群衆ハ能後守七代の事也  
 安藝國人其の御治也今の群衆同位の仕事也我々少何廣隆造  
 之末永八条二月日と切る有  
 安藝國人少く二子居多し此漢御ふうとハ一々若孫少総自ひ  
 係し鞆の重次山御より上り也  
 長門國仁王又ニ王す切る玉井氏也當時の仁王ハ玉井刑元左衛  
 つと名号に寛文の方清より何代來り得あり  
 安藝國人其の御治ハ二王の出来不似たり御も其よりして上り也  
 寛文此の御治と云ふなり  
 紀伊國仁人少く初代ハ而集少く二代三代ハ而集少くなり  
 四代目の後々時の重國其御治と云ふ  
 紀伊國康光と銘す康廣よりくる重國也又隆くして上り也



光曰

薩摩國佐賀縣の佐賀信國の末也予々兄し物ハト云ふハあべ

正永

吾何内也。西廣、子也。四代目、正廣、父也。是又父、小助、乃上、  
前里。







安周

安周の子として安常の弟也。按、日向宮なる所と稱す。按、平安周と切安國の事、按、日向宮なる所の海也。

安充

安周の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、平安充と稱す。按、日向宮なる所の海也。

安代

大和の事、按、日向宮なる所と稱す。按、平安代也。國人、日向宮の一事と稱す。按、日向宮なる所の海也。

安貞

安代の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、平安貞と稱す。按、日向宮なる所の海也。

清方

安貞の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、平清方と稱す。按、日向宮なる所の海也。

安在

清方の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、平安在と稱す。按、日向宮なる所の海也。

正清

安在の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、正清と稱す。按、日向宮なる所の海也。

正近

正清の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、正近と稱す。按、日向宮なる所の海也。

正良

正近の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、正良と稱す。按、日向宮なる所の海也。

清一

正良の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、清一と稱す。按、日向宮なる所の海也。

忠重

清一の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、忠重と稱す。按、日向宮なる所の海也。

元貞

忠重の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、元貞と稱す。按、日向宮なる所の海也。

元平

元貞の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、元平と稱す。按、日向宮なる所の海也。

國平

元平の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、國平と稱す。按、日向宮なる所の海也。

正貞

國平の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、正貞と稱す。按、日向宮なる所の海也。

國貞

正貞の子として、按、日向宮なる所と稱す。按、國貞と稱す。按、日向宮なる所の海也。



新刊

卷之四

一

卷之五

无武

正成

正次

重錦

重刊

國次

赤次

國不知



國良

貞道

國車

清次

國吉

兼住

和通



行高

以てつて下り地候御ふたふた屋敷の級格ふつし候者  
中候者かこの如くも切しと

壽命

五五の壽命ハ其徳のあふみなりし地候御て長くあまをてあ  
ゆのめくあつ候るもけしと候れとと多也

助廣

戦後ち藤原曲廣ハ地候御ふたふた屋敷の級格ふつし候者  
作のめし候後ちと候せしとや不富

新兵衛

軍を切直也或云戦前の國格やとたもあつしとて一と軍の國格  
りぬし中候も似たり候とてハふたふた屋敷の級格ふつし候者  
を候の

新刀辨疑卷之七

附録下

享保の比角野正久と云蒼天正の中より享保の末よりこの治工  
の傳來及び居所を記し一書と承り通見ると心得小中上下の  
品をわづらひ又誤る若少くすれども其志の敦厚なる感にて敢  
集の筆を採録し其省き名を以ていはは小配當し爰も追加一  
の助とあす又人幸又及むるを採り予に奏るとあふれ

い

家

同名小して数人可考ハ○を以てを別つはこれ倣

家時 播磨國住人 家廣 加賀金澤住藤原寛文○近江國住 家次 津州末

部住源○播磨姫路住藤原正藤利右衛門の父子二代 家貞 石原住

村和野住又播磨○豊前住國原あゆ仙七郎藤原 家通 上野守藤原

家勝 播磨住寛文 家勝 近江住藤原 家船 播磨住 家永 播磨住寛文 家介



接所治家善常州住家正能所國神醫那平戶住家弘加所至津住結系  
高保比吉之國國平の子也家定接所大坂住○奥州仙臺住冥系重末  
系木村清之衛と稱す伊勢吉のつ人  
家春播州那路住為系家榮能所  
系住人本源祖父と云ふ正次と稱す家治大和吉國急事凡

は春治

春田系部住春道武所江戸住石道春詣の屠民治能吉所住為所比

と倫威後友利知時具辰

倫祐奥所仙臺國分系結住為系部住之祖倫祐ハ豫阿清田助家の人  
想所中妻ありて四代目倫祐ハ之祖安多のつ人より余部右之國と云は  
名取也  
歲長山平外記利長父ありし○二村武花吉○阿波國津  
所所安多住の村石見也○二お者系進二村石見也  
歲仁武所江戸住  
住二村山城吉系保  
歲辰阿波國津所安多住  
歲長阿波國津所安多住

武所江戸住系系寛文友之備州住友周吉所秋住人友重和所住  
下所當麻末也海武所江都之清所も住友安薩州谷山海平  
所白津住為系友家石見國住之和利重出羽吉馬波國能山住祖父ハ  
系部又接所之國より後馬州へ移る系部江吉之通の人○奥州系津  
住下坂程より系部利安能所國長崎住為系寛保比吉四郎と稱す  
接伊賀石堂外時儒具辰辰仲誠所國福井住下坂系部不龍系も  
住すと云辰成能所江寛永

は親周

能所後柳川住系系寛保比之祖能所より五代お續  
住為系周重武所江戸住系系同重國重升切お所の末也

は兼包勝賢景一

系部系部○勢所系部○藝州唐吉○武所吉○系部系部下











卷之五

中書包過括物佐爲系ハ茂月の弘包弟子○加賀國越前包帯和州



名は元禄○播磨姫路に享保○寶永末を孫とす  
 ち受と云享保の末勝峯茂おはす寶永勝廣おはす  
 郎村勝左江戸に城あり○越前國新庄平太夫勝春播磨姫路に重  
 う子享保賢國賢次賢宗賢人賢春賢信肥後國玉名郡桑地岡田君也  
 享盛昌行豊後國高田重基八平岡又次郎昌行の弟のつとむ植木  
 享保昌廣平太夫昌隆茂長昌吉おはす昌定加州昌國備前長門長久利  
 昌介肥後桑地石見源昌也孝隆の弟のつとむ清少康國伯一口山城國山  
 陽佐

吉義美賀自嘉良義

**吉** 上野國既橋江之祿大坂市和雪吉道多弟子少之京山云謝  
乙○奥州中村江**吉長**肥後國諫早江五左衛門尉那勘半兵衛其長仙友  
子○**吉** 播磨江廣長**吉包** 播磨江陸奥雪左郎**吉武** 之衆吉則末子末







大忠為高貴種大武


忠重 犯前國、蘇系、汝江戶、汝瑞、臣、忠道、子波、國、臣、忠利、士、坂常、經、所、陸、寬、  
久思、臣、東、勢、臣、大、和、大、操、○、犯、前、作、聖、臣、○、作、阿、臣、蘇、系、忠、水、臣、臣、犯、前、

忠經  
大塚氏  
忠家  
忠房  
忠親  
忠友  
忠義

思貞復安江思平如所任為勝巢州金律上故李師大處一  
無為

子之為父也  
為利  
子  
為長  
為以  
子  
為則  
備  
要  
書  
并  
注  
之  
和  
為  
子  
式  
所  
也

井原清平 白雲長  
自念肉漸更即有受或云懷念山月のみやん

和州南都○按州大坂寛文二  
代目作徳吉弘包々子  
大坂寛文

廣世切實國佐  
江蘇古山子  
江蘇古山子  
長恩大坂助雲

上國多福  
果誠  
高輝  
甲州府中  
文祖市川  
美之助

唐正一代唐二代之時三代曰昭五代之次六代曰昭七代隸康

正徳國より仲々宗有は宗の御治成りて又  
 寶通  
 尼我多後登陸大

和意源の書 ○陸奥志、播磨志、佐賀志、  
○播磨志、佐賀志、佐賀志、佐賀志、佐賀志、

孫○孫叔以子及寺  
貴助  
尾州名護成侯陸妻曹氏明唐崔永  
征州長

暗怪其師古四郎左衛門、父八正次と云河東正統を歩掛書に度不傳云











































清金

清光加於金溪。過村相接。寺名和同。橋廣大。掠寧文。同歸寺係。○城中  
 果。過村又在廣門村。寧文。○同歸山主係。○橋。所屬。名。明。乃。又。五。路。或。之。  
 加。於。文。祖。八。號。中。之。寧。又。之。廣。加。於。之。以。是。非。人。清。光。之。號。中。加。於。之。同。

伐夷人有能深害比族中以誅之者賜以弟可也。加州元  
 父長左ノ子長ノ衛清貞薩州給黎郡長入清修筑後之司米誠茂  
 吉八奥州多津下坂ノ弟子也。江城多吉切。山浦多保清房薩州給黎  
 郡長入多保中お清者ノハ之祖法食代目ト云清次薩州鹿也給。  
 長州義三豆元保清正長州義三豆多保才清ノ子清鎮安藝國長州  
 小も保三豆寛文清一薩州清常尾張國蘇子切清近上野國志江  
 京府系清澄大和普現山清重佐州長新寛永〇遠江國志江。〇加州  
 小松多保。〇播州大坂系江家寛文山浦多保長ノ親也。清吉播州大坂  
 寛文清平長州義三豆玉井新者ノハ多長比ノリお統す。〇薩州霧山  
 郡谷山波平王和。〇加州ノ父担ハ志津兼ハ東義江お老多二代多平  
 元和ノ代清平ハお州山田系四代多保左衛門。五代山浦比六代目  
 江戸小も保清貞長門縣三豆清長志江。〇長州海軍多保山麓義



行之流

行廣薩長河原史、河内史、高保。○高保、出羽守、長。○播磨、備中、攝  
播磨、河内、備中、大坂、同、人、あ、る、し、之、保。○石、我、名、守。○出、羽、國、東、津  
山、林、孫、七、之、保。○同、山、林、孫、六、之、保。○石、我、名、守、大、坂、同、人、少、之、康、保  
つ、つ、あ、る、し。○同、山、林、孫、行、滿、孫、前、代、史、者、系、行、光、加、山、江、大、坂、延  
寶、比、史、元、文、山、林、之、連、孫、子。○高、田、史、光。○石、我、名、守、仲、史、勲、乃、山

蘇系、京保行道落所康思源河あり蘇系寛文行長陸奥國行已  
 傳子國吉和川七郎吉衛門茂長行家本任大野甲斐中為宗早の長  
 行弘蘇系國とは常力江郎行則信子國守因之吉衛門付幸昌加ある  
 源、江戸吉の付、是長之和同不為吉衛門付正徳享保在治の末より  
 蘇系吉衛門とて代々至幸久加あるは幸貞陸奥国田平道三京守右衛  
 門尉之勝武州江戸佐渡守石道播磨綱甲物有申、京保

子光道通三遠

光平加賀金澤藩主。○日蓮出羽吉長氏は、  
長久保を文備、一文字、東流、邦彦、國の  
不堂、ハ時、一文字の流、光  
平を在、と云、  
也、然ハ是、一ハ光平、予、取、べし、  
光平、加賀江、戸、  
中、江、加賀、少、子、報、ふ、も、  
明、廣、美、居、  
大將、尾、加、高、澤、屋、  
加、賀、保、元、江、  
光代、主、一、代、目、  
光、加、賀、主、  
元、和、一、代、目、







八

久廣弘秀英沈

久道紀芳、原建部、至江古、源末、之通、之順、父子之作、又駿河書院、系

夏、時、東、八、元、祖、阿、婆、多、此、其、師、也、四、師、方、之、の、師、種、永、く、子、久、負、阿、婆、多、  
 其、原、阿、婆、多、  
 久、國、大、阿、多、國、ふ、知、久、吉、東、部、廣、辰、誠、多、國、○、  
 阿、婆、多、常、陸、多、其、保、其、古、以、八、元、祖、も、て、同、國、上、有、知、少、後、○、武、多、  
 廣、正、甲、阿、有、中、○、播、磨、多、國、ふ、知、廣、道、製、州、多、多、才、和、大、和、多、其、多、  
 其、保、依、多、其、多、の、師、大、坂、は、四、師、廣、多、弟、子、と、云、廣、義、按、阿、大、坂、其、多、  
 其、多、又、は、四、の、弟、と、云、廣、升、大、坂、播、磨、多、源、寬、文、○、廣、國、大、坂、廣、周、加、  
 國、○、大、坂、の、數、代、其、多、の、其、多、多、も、河、内、多、と、交、り、す、と、云、子、の、小、孤、  
 其、多、多、其、多、廣、負、國、阿、多、其、多、廣、佳、其、多、代、其、誠、中、其、多、國、の、子、廣、久、其、多、  
 依、其、其、多、廣、能、其、多、其、多、其、多、長、廣、家、常、陸、國、廣、調、紀、伊、國、廣、勝、紀、  
 其、多、國、の、其、多、也、廣、吉、廣、阿、○、依、州、廣、重、の、其、多、其、多、其、多、其、多、其、多、其、多、  
 ○、其、多、其、多、其、多、其、多、○、其、多、其、多、其、多、其、多、○、其、多、其、多、其、多、其、多、○、其、多、其、多、其、多、其、多、  
 其、多、其、多、其、多、其、多、○、其、多、其、多、其、多、其、多、○、其、多、其、多、其、多、其、多、○、其、多、其、多、其、多、其、多、



守盛森持元本誠意

[illegible]







名和

王宗

里切山十郎

寶榮園

石名

銘長

國石

牡丹

子及國

田

美濃大進也

新刀辨疑卷之七大尾



